

畑辺 健* 石木征宏*
成原弘修*
和田一博*

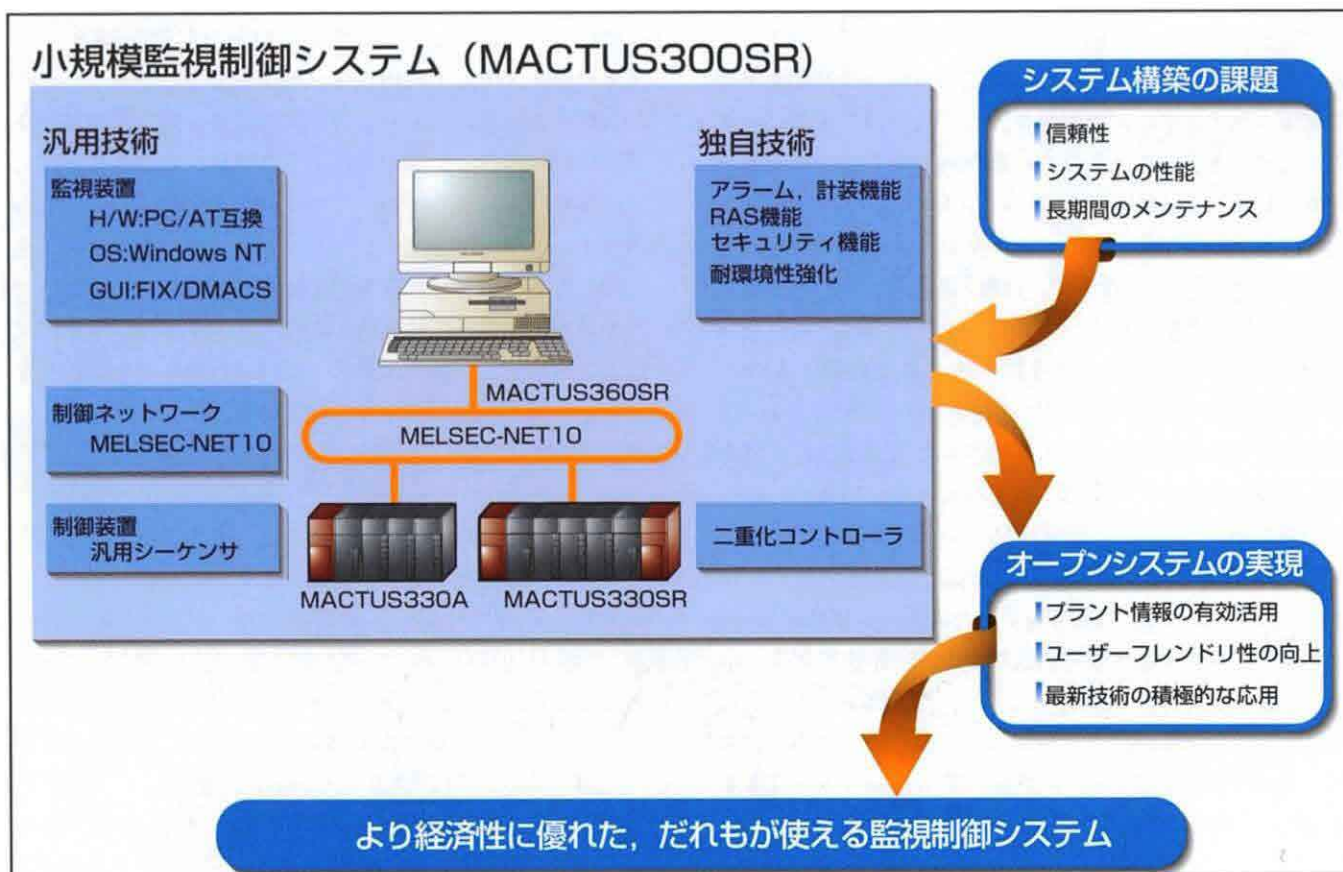
上下水道中小規模監視制御システム

要 旨

政府によって1997年1月に公共工事建設コスト縮減対策に関する行動指針が策定された。コスト縮減方法は、所要の機能・品質を確保しつつ、建設に必要な費用を減らすことが前提となっている。中小市町村での上下水道事業も、この行動指針に則して、限られた人数で推進し、維持管理を行うことが求められている。そして、適用される監視制御システムは、より経済性に優れ、また、だれもが使えるシステムが要求されている。

三菱電機では、このような最近の要求にこたえるため、上下水道プラント向け監視制御システムとして、小規模監

視制御システム“MACTUS300SRシリーズ”及び中規模監視制御システム“MACTUS500GRシリーズ”を開発した。両システムとも、システムの中に業界標準(De Facto Standard: DFS)のハードウェア(H/W)、ソフトウェア(S/W)、ネットワーク、市販のパッケージソフトなど汎用技術を積極的に取り入れ、監視制御システムに必要な機能・性能・品質を確保している。また、両システムの適用により、プラント情報の解析・加工が自由に行え、従来のプラント監視制御の枠を越えたプラントの維持管理・運用管理が可能になる。



汎用技術を取り入れた監視制御システム(小規模監視制御システムの例)

監視制御システムの中に汎用ハードウェア、汎用ソフトウェア、汎用パッケージソフトウェアなど業界標準の汎用技術を積極的に取り入れながら機能・性能・品質を確保した。